

第1号議案

平成25年度事業報告（案）

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

I. 概 況 P 4
II 公益目的事業	
1. 環境を未来に引き継ぐ事業 P 4
1) もったいない総研事業	
(1) もったいないスクール2012の実施	
(2) もったいない精神（こころ）の普及	
(3) もったいない塾の開催	
(4) 広報活動の実施	
2. 産業人材を育成する事業 P 6
1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業	
(1) 高度人材育成プログラム事業の企画、運営	
(2) 社会人教育プログラム事業の企画、運営	
(3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営	
(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備	
3. 次世代を担う人材を育成する事業 P 8
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業	
(1) 支援体制の強化	
(2) 支援事業の充実	
2) ひまわり塾の運営	
(1) 第21期ひまわり塾の実施	
(2) 「ひまわり塾同窓会」の設置	
4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 P 10
1) 「1000人の夢寄金」事業の実施	
(1) 募金事業プロジェクトの推進	
(2) 助成事業プロジェクトの運営	
(3) 広報・プロモーション事業の実施	
2) その他関連事業	
(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援	
(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画	
5. 情報受発信・交流事業 P 12
1) 情報受発信の強化	
(1) KPECニュースの発行	
(2) ホームページの運営	
2) 地域づくりネットワーク事業	
(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営	
(2) 地域づくりネットワークへの参画	
6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業 P 13
1) 教育普及事業	
(1) イノベーションフォーラムの開催	
(2) 技術革新講座の開催	
(3) ものづくりフォーラムの開催	

- (4) デザイン講座の開催
- 2) 企画展事業
- 3) 調査研究事業
 - (1) 「北九州における溶接技術の歴史と発展」の調査・研究
 - (2) 「北九州におけるモータドライブ技術の歴史と発展」の調査・研究
 - (3) 「イオン交換樹脂の技術系統化調査」の調査・研究
 - (4) 「マイスターによる効果的な技術指導～ワイヤロープ加工作業～」の調査・研究
 - (5) 「九州鉄道・大蔵線」の調査・研究
- 4) 映像・図書収集及び公開
 - (1) 図書の購入
 - (2) 映像の制作
- 7. まちづくり推進事業 P 15
 - 1) まちづくり講演会の開催

Ⅲ. 法人運營業務

- 1. 会員サービスの向上 P 16
 - 1) 情報提供の充実
- 2. 財務体質の改善策の実施 P 16
 - 1) 財務体質改善計画の編成
 - 2) KIGS の管理運営についての検討実施
 - 3) 賛助会員の拡大
 - 4) 寄付事業の開設・運営
- 3. 地域連携促進事業の運営 P 16
 - 1) 「スポーツ振興チケット」事業
- 4. 組織運営体制の強化 P 17
 - 1) 事業運営体制の整備
 - 2) 公益認定範囲の見直し
- 5. 会議等の開催 P 17
 - 1) 評議員選定委員会の開催
 - 2) 評議委員会の開催
 - 3) 理事会の開催
 - 4) 執行役員会議の開催

I. 概況

平成25年度の我が国経済は、「三本の矢」の一体的な取組の下で持ち直しに転じ、経済再生に向けた取組などを通じて雇用と所得の増加の期待も高まり、消費税改定に向けた駆け込み需要の効果もあり、個人消費の伸長がGDP成長率の改善に寄与するところまで回復してきた。

また、低迷してきた輸出も、円安の輸出押し上げ効果が徐々に顕在化し、海外景気の回復とあいまって増加に向かうことが期待され、企業収益は全産業的に改善してきた。

北九州地域においても、製造業を中心に景況感は好転してきたが、中核企業の生産の海外シフトや円安による原材料等の輸入価格上昇、また、電気料金値上げ、消費税増税によるコストアップ等、中小企業等の経営環境は依然不透明感を残したままである。

こうした環境の中で、平成25年度KPECの事業経営は、地域企業を中心とする産学官各分野の理解と強い支援を得て、経営体質の改善・強化と事業の整理・拡充を中心に、概ね年度計画を達成した。

また平成25年度は、北九州市政50周年として各分野で記念事業が実施されたが、KPECも創立25周年の節目の年であり、25年の時の経過を踏まえ、設立記念シンポジウムのテーマと同じ「工業都市一北九州への期待」をテーマに、北九州地域経済団体連携フォーラムと連携して「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を記念事業として実施した。

平成25年度の事業運営については、フレームワークを終えた「産業人材育成フォーラム事業」「小学校応援団事業」「1000人の夢基金事業」の3つの新規事業を中心に地域活性化の新しい仕組みづくりを推進した。各事業における関係組織・機関等との連携軸としてKPECの役割と機能を確認するとともに、事業運営費の確保、協力企業等のネットワークの構築に努めた。

また、「もったいない総研事業」については、実施事業の総括と中長期的な視点に立った事業の再構築を行うための環境整備を行った。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー(KIGS)の管理、運営については、事業計画の内容及び運営方法の総括を行い、運営効率の向上とKPECの組織環境を生かした運営体制に向けた環境整備を実施した。

また、管理運営については、財務体質改善に向けた計画編成と資金運用効率の向上対策を実施するとともに、事業の拡充に対応した事業運営体制の整備を行った。

平成25年度の事業実施状況は以下のとおりである。

II. 公益目的事業

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

1) もったいない総研事業

「もったいない総研」の運営を通じて、以下の環境関連事業を実施した。

一方で、もったいない総研事業の今後の在り方を再検討することとし、運営体制の見直しも含めて、事業の再構築を行うための検討を進めた。

(1) もったいないスクール2013の実施

(一社)北九州青年会議所と協働で子供の環境知識の向上を図ることを目的に「もったいないスクール」を実施した。

① 事業概要

「曾根干潟」を持続可能な地域資源として保全することの重要性を発信するため、曾根干潟を題材にした短歌・川柳・俳句を募集し、優秀作品を表彰した。

② 募集対象 : 北九州市内在住の市民

③ 応募数 : 829件 (10代以下からの応募が全体の7割を占めた)

(2) もったいない精神(こころ)の普及

“もったいない精神(こころ)”の普及を目的として、以下の活動を実施した。

① 環境「もったいない」作文の募集、表彰

子どもたちが環境問題への関心を深めることを目的に、北九州市PTA協議会と協働で「環境作文」募集事業を実施し、FM北九「ラジオもったいない塾」で入賞者が作文を朗読するなどの啓蒙活動を行った。

i) 募集対象 : 北九州市内全域の中学2年生

ii) 応募数 : 343件

② 「ライトダウン&キャンドルナイト北九州2013」

環境省の「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」と、民間団体の「百万人のキャンドルナイト」の趣旨に賛同して下記事業を実施した。

i) ブラック・イルミネーション(6月21日)

会員企業・団体に事業所照明の消灯キャンペーンを行い、多くの企業が参加した。

ii) キャンドルナイト(7月7日)

小倉北区のリバーウォーク北九州にて、来場者に制作してもらった「紙製」ランタンでキャンドル点灯を行うと共に、七夕コンサートを開催し、延べ300名の市民が参加した。

③ 食と農のプロジェクト

有機栽培で育てた地元の農産物を消費者に紹介し、環境に貢献しながら、地元食文化の継承や子供たちの食育を進める「食と農のプロジェクト」を実施した。

i) 「食と農のトークショー」の開催

東京で活躍しているマクロビオティック・インストラクターや、阿蘇小国でエコビレッジ「TAO塾」を主催している食育エコロジストによる地産地消にかかる講演会を実施した。

ii) ホームページによる啓蒙事業の実施

プロジェクト担当委員が見出した有機栽培農家や有機栽培食物を食材としているレストラン、ショップなどをホームページで紹介した。

④ 年長者研修大学校への出前講演

年長者研修大学校の「暮らしと環境」講座で、「もったいない総研」の活動を紹介した。

・穴生学舎: 実施日 平成25年5月20日、参加者 32名

・周望学舎: 実施日 平成26年1月23日、参加者 42名

⑤ リサイクル・トイレットペーパーを通じた環境教育

i) 環境教育支援寄付の実施

「北九州紙えこっパー」の製造・販売メーカー大分製紙からの寄付金(20万円)を、北九州市PTA協議会の環境教育事業に寄付した。

ii) 「北九州紙えこっパー」を活用した資源循環環境の改善への取り組み

学校給食の牛乳パックを「えこっパー」の原料として活用することを北九州市教育委員会へ提案し、環境モデル校(小・中学校19校)においてリサイクルを実施した。

(3) もったいない塾の開催

① 「ラジオもったいない塾」の実施

市民や企業の環境意識の啓発を目的に、北九州シティFMの環境番組「エココロWind」にて「もったいない作文」の上位入賞者による朗読を放送した。

② 「もったいない塾（講演会）」の実施

春秋の2回、「北九州の食」の改善をテーマに講演会を開催した。春は「アースデー北九州2013」実行メンバーと連携し、秋は山形県発のドキュメント映画「よみがえりのレシピ」の上映会と野菜ソムリエの講演会「福岡の野菜プチ講座」を実施した。

(4) 広報活動の実施

もったいない総研の活動を周知するため、以下の広報を行った。

- ① 広報誌「もったいないすたいる」の発行（平成26年3月、1200部）
- ② もったいない総研ホームページの運営

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ事業」の拡充と大学と企業の自律的連携によるインターンシップの運営システムの改善を図り、事業のビジネスモデル化を行うと共に、研究プロジェクトによる関連事業の研究、開発及び事業化を推進した。

① 「地域連携型インターンシップ事業」の実施

- ・ 対象企業数：217社（登録企業数：101社、実施率：47%）
- ・ 事業参加状況

	H25年度		H24年度		H23年度	
	参加	登録	参加	登録	参加	登録
参加大学	4	4	4	4	2	2
参加学生	122	164	121	159	59	62
参加企業	73	80	57	63	33	42
登録企業数	101 (240%)		86 (204%)		42 (100%)	

② インターンシップビジネスモデル事業の実施

i) インターンシップミーティングの企画、開催（括弧はH24年度）

インターンシップに対する学生の不安解消のための事前相談を目的に、連携校合同のインターンシップ参加促進事業を実施した。

- ・ 実施日：H25年6月16日・場所：九州工業大学・参加学生：73名・企業参加：13社

ii) 大学別インターンシップセミナーの拡充実施（括弧はH24年度）

フォーラム事業と体系化した各大学別インターンシップセミナー等を実施した。

九州工業大学	北九州市立大学	西日本工業大学	国立北九州高専
350名(195名)	111名(113名)	70名(60名)	190名(19名)

iii) 「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施

北九州商工会議所が推進する産業観光事業とインターンシップと連携して企業見学ツアー事業を実施した。（大学スケジュールが合わず九工大1校で実施）

- （実施回数：1回 ・参加校：1校(九工大) ・参加者数：学生10名)

③ 「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成

「地域連携型インターンシップ事業」のデータベース及びプロモーションツールとして事業ガイドCD-ROM(200枚)を作成し、新規参加企業等へ配布した。

④ インターンシップ研究プロジェクトによる事業及び環境開発の実施

「インターンシップ研究プロジェクト」は、H26年度の事業化に向け「実践型インターンシップ」について環境調査及びフレームワークを行った。

(2) 社会人育成プログラム事業の企画、運営

「社会人プログラム研究プロジェクト」を編成し、中堅・中小企業の中核専門技術者、中堅技術者及び経営管理人材の育成、強化を目的に、地域大学の制度・環境を活用した「社会人向け人材育成プログラム」の研究・開発を行った。

① 中堅・中小企業の「中核専門人材等」の育成に向けた環境開発

i) 「北九州ドクターチャレンジプログラム」の事業化促進

中核専門技術者のリカレント・スキルアップの手段として、九州工業大学の社会人プログラムの活用促進のための広報を実施した。

ii) 「北九州テクニカルカレッジ事業」の企画編成

大学の地域連携・産学連携の中長期的な仕組みとして、技術的な課題の解決、中堅技術者・技能者のスキルアップと意識改革、大学と企業の交流基盤の構築を目的とした、出張技術相談「北九州テクニカルカレッジ事業」の企画編成を行った。

② 中堅・中小企業の「経営人材育成」に向けた環境開発

「MBA活用プログラム」研究プロジェクトを編成し、北九州市立大学大学院マネジメント研究科と連携した経営人材育成のための事業の企画・開発を行った。

i) 「MBAサテライトフォーラム」及び連携講座の実施

(MBAサテライトフォーラム)

北九州市立大学 K2BS と連携し、公開経営講演会・パネルディスカッションを実施した。

- ・ 開催日：平成25年8月30日（金）（会場：北九州国際会議場）
- ・ テーマ：「今だからこそ、女性が社会イノベーションを起こす！」
- ・ 講師：（株）エムスクエア・ラボ 代表取締役 加藤百合子氏
- ・ 参加者数：140人

(連携講座)

中小企業基盤整備機構（中小企業大学校 直方校）と連携した連携講座を実施した。

- ・ 連携講座名 「企業における女性活躍推進講座Ⅰ、Ⅱ」
- ・ 会場：北九州市立大学小倉サテライトキャンパス・中小企業大学 直方校
- ・ 参加者；第1回：14人 第2回：22人

ii) MBAホルダーによる白熱講座の企画編成

MBAホルダーである企業経営者等による大学生を対象にした実践型のキャリア形成講座のカリキュラムの編成を行い、H26年度実施を見込む。

iii) 産業人材育成フォーラム車座経営者育成塾の企画開発

フォーラムの実践的経営研究事業として、「経営継承」をテーマとした車座講座の企画開発を行いH26年度に実施を見込む。

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営

青少年プログラム研究プロジェクトにおいて、小学生を対象にした早期工学教育(ものづくり教育・キャリア教育)の実施環境調査を実施し、青少年育成プログラムの事業化のためのフレームワークを実施した。

i) 北九州型（産学連携）ものづくり教育&キャリア教育”モデルの編成

・北九州市における関連機関の早期工学教育の実施状況調査	実施
・北九州における小中学校の“ものづくり教育等の実施状況調査	実施
・北九州の「企業」における“ものづくり教育等の実施状況調査	計画
・“ものづくり教育等の個別モデルカリキュラムの開発	計画

ii) 藤田哲也博士をテーマとした小学校用専門教材づくりの実施

藤田哲也（トルネード）博士をテーマにした小学生対象の教材づくり、北九州市立小学校の理科研究会において実施することとし、H26年度実施に向けた準備作業を実施。

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

i) 九工大北九州地域企業学内説明会の実施

平成24年度に続き、地域中堅・中小企業への就職機会創出を目的に、フォーラム事業対象企業にした学内企業説明会を開催した。

開催日	参加企業	参加学生数	参加企業への就職数
H25年7月6日	19社	延べ 114人	11名

ii) 各種関連調査及び統計の実施

フォーラム事業の実施評価及び関連事項のトレーサビリティの確保のために、インターンシップ関係、就職関係等、フォーラム事業に関連する各種調査及び統計の整備を開始した。

(調査項目)

- ・インターンシップ実施状況調査(大学別・総合)
- ・北九州地域企業への就職状況調査(大学別・総合)
- ・大学別インターンシップ事業関連アンケート調査(企業・学生)
- ・社会人プログラム事業関連地域企業ニーズ調査

iii) 外部関係機関等への広報等の実施

関係機関の調査対応及び外部機関等へのフォーラム事業の広報を実施した。

(関係機関による調査対応)

- ・平成25年 9月 5日 経済産業省 大臣官房審議官(雇用・人材担当)
- ・平成25年12月10日 (独) 科学技術振興機構(産学官連携ジャーナル)
- ・平成26年 1月13日 (独) 科学技術振興機構(研究開発戦略センター)
- ・平成26年 3月13日 経済産業省経済産業政策局 産業人材政策室

(外部機関への広報・講演等)

- ・平成25年 8月27日 北九州環境ビジネス推進会8月例会
- ・平成25年 9月23日 北九州市立大学経済学部60周年記念シンポジウム
- ・平成25年11月20日 平成25年度小倉南区区政研究会
- ・平成26年 2月17日 福岡経済同友会

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

(1) 支援体制の強化

① 市教育委員会及びKPECとの連携強化

- i) 支援事業の円滑かつ継続的な推進を図るため、小学校応援団、教育委員会及びKPECの三者で「北九州市立小学校への教育支援に関する協定書」を締結した。

ii) 上記協定に基づき三者調整会議を開き、事業計画等について定期的に協議・調整を行った（8回）

② 規約の整備

「北九州の企業人による小学校応援団規約」を定め、団体の位置づけや運営組織を明確にした。

③ 小学校応援団参加企業の増強

参加企業倍増を目標に、経済団体との組織連携と会員企業の参加促進などに取り組んだ結果、参加企業数は144社（24年度末）から、8経済団体・201社となった。引き続き増強を図る。

④ PRの実施

i) 小学校応援団の取り組みを紹介するリーフレットを作成し、参加要請活動等に積極的に活用した。

ii) PTA協議会主催「明日の子どもを育てるフェスティバル」（10月）への従業員家族の参加呼びかけを兼ねた小学校応援団PRポスターを作成し、企業等に配布、掲示を依頼した。

iii) 外部関係機関等への広報等の実施

（外部機関への広報・講演等）

- ・ 平成25年4月4日 小倉のまちづくりを考える会
- ・ 平成25年1月25日 教育力向上福岡県民フォーラム
- ・ 平成26年2月21日 八幡西ロータリークラブ例会

(2) 支援事業の充実

① 「PTAの日」への協力

i) 「明日の子どもを育てるフェスティバル」（PTAの日行事）への従業員家族の参加を呼びかけた。

また、企業の出展協力を得た（TOTO、安川電機、新日鐵住金、シャボン玉石けん、大分製紙）。

ii) PTA協議会、小学校校長会、教育委員会との協議の結果、26年度は、4月の各小学校のPTA総会開催日を第1回PTAの日とすることに決定。これを踏まえ、従業員のPTAの日への積極的な参加を企業に協力要請した（4者連名）。

② モデル校に対する支援の継続と検証等

i) モデル校は、当初の11校に民間人校長配置校2校を加え13校とした。

ii) モデル校校長会議を開き、支援事業のあり方等について意見交換を行った。

iii) 各校の支援事業活用計画のヒヤリング及び企業との調整を行ったうえで、支援事業を実施。実施件数は20件（24年度）から49件に大きく増加した。

iv) このほか、10年次教諭体験研修の受け入れに協力した（井筒屋、JR九州、山九）。

③ 支援メニュー（支援情報リスト）の拡充

i) 企業の協力を得て、児童、教職員、保護者に対する支援情報リストの充実に取り組み、リストの数は31件（24年度末）から46件に増加した。引き続き支援メニューの拡充を図る（目標100件）。

ii) 九州工業大学の協力を得て、児童及び保護者向け出前講義の情報（講義数26）をモデル校に提供した。また、児童の工場見学などに適した北九州市産業観光協力事業所（48社）を紹介した。

④ 企業経営者等の講師登録

i) 経営者や技術者、専門家の知見を出前授業や教職員研修などに活かすため、企業等に講師登録について協力を依頼したが、登録には至っていない。引き続き人材情報の収集に取り組む。

ii) 企業従業員向けの親学（学校教育・家庭教育分野など）の講師については、教育委員会から17人（現職の教員や元教員）の推薦を受けている。

2) ひまわり塾の運営

企業人と市職員が協働して実施する“まちづくり”講座—ひまわり塾を北九州市と共催で実施した。また、21年の歳月を経て、官民協働の機会は増加しており、他のまちづくり団体との類似性を指摘する声もあり、今年度をもってひまわり塾を終了することとした。

(1) 第21期ひまわり塾の実施

- ・ 参加者 : 20名(企業:9名、北九州市:11名)
- ・ グループ研究発表会・閉講式 ; 平成25年7月12日(金)ステーションホテル小倉(ひまわり塾の実施結果)
; 開催回数;21回、卒塾生は662名(民間:334名、市:328名)

(2) 「ひまわり塾同窓会」の設置

- ・ 第1期から21期にわたる卒塾生が「ひまわり塾同窓会」を設置し、まちづくりのための「連絡網」を構築した。

4. 都市格(教育力・文化力)を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

都市格(文化力・教育力)の向上を図ることを目的として、教育および文化分野における市民活動へ助成する「1000人の夢寄金」事業を実施し、第2回助成事業を行った。

(1) 募金事業プロジェクトの推進

① 1000人委員会の編成

「市民の気持ちを集めみんなの力でこのまちの教育・文化活動を支援する」ことを目的に、1口3,000円(年額)の寄付者による「1000人委員会」を組織し、寄付事業を展開する体制づくりを行った。

② 寄付金募集

「1000人の夢寄金」第二期(平成25年4月から平成26年3月まで)の寄付金募集を実施。

- ・ 件数 ; 227件(法人会員83件、個人会員144件)
- ・ 寄付金額 ; 総額1,782,942円

③ 寄付金受け入れ体制の構築

i) 寄付金優遇税制を活用できる体制の構築

公益財団法人の特例要件を生かし福岡県より税額控除に係る証明を取得し、寄付金控除に対応できる体制を整えた。

ii) 寄付金受け入れ体制の構築

個人からの寄付に対応して、専用郵便口座開設とあわせて専用振込用紙を制作した。
また、クレジット寄付システムを継続運用した。

iii) 大口寄付金受け入れ体制の構築

通常の基本的な寄付以外に香典返し、バザー売上、その他大口寄付金の受け入れ体制を構築した。

④ 寄付金受け入れ方法の多様化

i) 企業寄付

- ・ 明治安田生命保険相互会社より社内バザー売上の寄付受け入れ。(寄付金額; 53,942円)

ii) 1000人の夢寄金・チャリティーゴルフコンペを開催

- ・ 日時 ; 平成25年11月26日(火)(場所;九州ゴルフ倶楽部八幡コース)
- ・ 参加者 ; 96名(当日寄付金額; 288,000円)

iii) その他寄付金

- ・ 一般香典返し:件数 ; 2件(寄付金額 ; 250,000円)

(2) 助成事業プロジェクトの運営

① 1000人の夢寄金審査委員会の設置

1000人の夢寄金の趣旨に沿って公正、公平、公明性を持った審査を行うため、7名の審査員で構成する審査委員会を組織するとともに、審査委員会運営規定において審査方法および審査基準を定めた。

② 助成先団体の募集と選定

平成25年10月から平成26年3月までの事業実施を対象として、平成25年9月15日より9月30日の間、第2回目の助成先の募集を行った。14件の応募について、審査委員会の審査を経て下記6事業を採択し、頂いた寄付金から1,900,000円を助成金に充当した。

【第2回助成先】

助成先団体名	事業名	事業概要
佐々木 玄	ZKU Berlinに於ける滞在制作及び展覧会の開催	ZKU Berlinは最先端の現代美術作品の展覧会を開催するとともに、世界各地の新進気鋭の美術作家に滞在制作及び作品発表の機会を与えるプログラムを実施している。 年間13名しか選ばれない狭き門を突破
北九州インスタレーションプロジェクト実行委員会	インスタレーションプロジェクト「都市のファンタジー」展の開催	空きビルや町中のデッドスペースを利用した空間芸術作品を作成し街の魅力向上につなげる。
創を考える会・北九州	「北九州のディテール展」	市内にある歴史近代建築に着目し、北九州市の財産を再認識し、発信する展覧会を開催
ひびきの親子遊び研究会	ひびきのであそぼう～あそびはまなび 子どもと親の出会いの広場	子育てを支え、子供たちがあそびながら学べる場を確保する。
北九州国際ビエンナーレ2013実行委員会	北九州国際ビエンナーレ2013	アートと社会の新しい関係を北九州から発信していく
福田寛季を応援する会	「HIROKI FUKUDA GRADUATION SPECI AL CONSERT 2013」 ～感謝の思いを込めて～	現役高校生によるコンサート開催。高校生・施設入所者等400名を招待。 場所：北九州芸術劇場中劇場 実施日：平成26年2月11日（火）

③ 助成回数の変更

平成26年度より年2回だった助成回数を年1回10月助成に変更し、当面の寄金財務の安定化を図ることとした。

(3) 広報・プロモーション事業の実施

① 広報ツールの作成及び広報の実施

i) 「1000人の夢寄金」ホームページ及びFacebookの活用

専用ホームページおよびface bookによる広報を実施した。助成先各事業のトピックスを掲載・発信した。

ii) 夢寄金のパンフレット（簡易版）の作成

夢寄金募集用パンフレットの改善を行い、1枚で広報と振込ができるようにした。

② 年度報告書の作成

平成25年度計画で計画をしていた報告会の開催に変えて、当面は年度事業報告書を寄付者に送付することとした。

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

北九州活性化協議会が企画し平成8年に開始した市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」において、実行委員会（委員長；中野副理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った（「北九州ミュージックプロムナード2013」は18回目）。

・開催期間：平成25年8月9日(金)～9月22日(日)

・参加者数：10,595名

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリーを民間主導で推進するための機関として平成19年に設置された「北九州市にぎわいづくり懇話会」において、企画調整委員会（委員長；小嶋理事長）へ参画し、にぎわいづくり認定事業において7事業を認定し支援を行った。

5. 情報受発信・交流事業

1) 情報受発信の強化

(1) KPECニュースの発行

機関紙「KPECニュース」を発刊し、会員企業および関係団体に配布した。

(VOL. 58、平成25年5月、発行部数：1000部)

また、位置づけを再検討し、年1回5月に年度報告として発行することとした。

(2) ホームページの運営

KPEC本体及び4事業のホームページを設置し、タイムリーに発信を行った。

2) 地域づくりネットワーク事業

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営

北九州市内経済団体の連絡会議（構成：北九州商工会議所、(公財)北九州活性化協議会、(一社)西日本工業倶楽部、(社)北九州中小企業経営者協会、(社)北九州青年会議所、(社)北九州青年経営者会議）を編成し、共催事業実施および団体間の事業連携を図った。

① 共催事業の実施

i) 世界に広がる北九州の明日を考える講演会

北九州地域経済団体連携フォーラムの構成団体の共催事業として、恒例の「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催した。

・日時：平成26年3月7日(金)（北九州国際会議場 メインホール）

・講師：(独) 科学技術振興機構 研究開発戦略センター長 吉川 弘之 氏

・テーマ：「今後の我が国の科学技術イノベーションと工業都市—北九州への期待」

・参加者数：420名

ii) 北九州の明日を考える講演会連携事業の企画、実施

「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の連携事業として、地域の各分野のトップによる「北九州の可能性を考える」パネルディスカッション&交流会を企画、開催した。

- ・ 日 時 : 平成26年3月7日(金) (西日本工業倶楽部)
- ・ パネラー : 吉川弘之 J S T 研究開発戦略センター長、 広実郁郎九州経済産業局長
國武豊喜 (公財) 北九州産業学術推進機構理事長、 津田純嗣安川電機
(株)代表取締役社長
- ・ コーディネーター: 松永 守央 公立大学法人九州工業大学学長
- ・ 参加者 : 100人

(2) 地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たした。

6 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

平成22年4月から第2期指定管理者を受託し北九州市に提出した事業計画に基づき、25年度の事業運営に取り組んだ。また、25年度は市制50周年に当たる為、関連記念イベントを開催した。

〈利用者目標・実績〉

入館者、企画展観覧者、教育普及参加者の数値目標はいずれも達成した。また、入館者数は、貸室で行った「知覧特攻平和会館北九州展」(2週間で、計17,189人)の影響もあり開館以来の記録を更新した。

《数値目標達成状況》

項 目	計 画	実 績	達成率	備 考
入館者数	63,000 人	81,492 人	129%	過去最高値:平成24年度 65,920人
企画展 観覧者数	19,100	19,666	103%	春・夏企画展が貢献した。
教育普及事業 参加者数	8,600	13,464	157%	学校等団体誘致活動により、来館者増加。 過去最高値:平成24年度 14,056人

1) 教育普及事業

当館の教育普及事業として、以下の各講座及び、独創的で多彩なイベントを企画、実施し、多くの参加者に好評であった。

(1) イノベーションフォーラムの開催 [1回]

開催日:平成26年3月8日

【基調講演】「今後の日本の科学技術イノベーションと次世代への期待」[吉川弘之氏]

【特別講演】「イノベーションの源泉としての太陽系探査」[矢野創 (JAXA)]

我国を代表するイノベーションリーダーと青年世代の研究者を抱き合わせた2部構成とし、より包括的に科学技術の可能性等について学生に提供できた。

(2) 技術革新講座の開催 [5回]

- ・ 年間テーマ 「日本のエネルギー利用最前線」

No	テーマ
1	日本のエネルギー事情と石炭の高度利用の最先端
2	風のエネルギー利用最先端
3	地球と太陽のエネルギー利用最先端
4	新技術が生み出す国産エネルギー最先端
5	シェールガスやメタンハイドレートは我が国エネルギーの救世主か？

(3)ものづくり講座の開催（計6回）

- ・一般対象の講座(台湾新幹線工事物語等) (2回)
- ・工業高校生等対象の出前講演 (4回)

(4)デザイン講座の開催（計5回）

- ・壁掛け時計のデザイン(2回)
- ・古着のデニムや端切れを直した、おしゃれなバックをデザインしてみよう(2回)
- ・きり撮りつづる！～北九よかとこフォトグラフ

(5) その他

市民講座、マイスター工房塾、調査研究報告会、ワークショップなどの事業を実施した。

2) 企画展事業

当館のコンセプト～イノベーション～を切り口とした展示会及び特別展を開催した。

企画展名称		期間	開館日数	観覧者数	備考
春企画展	※ヒトと共にあるロボット展	3月30日～ 6月30日	79	5,779	社会環境の変化に対応した、ヒトの動きをサポートすること、安心・安全を守ることなどに特化したロボットを紹介した。
夏企画展	※船のなるほど展	7月13日～ 9月23日	69	8,124	船のしくみ、船ができるまでの解説、幅広く活躍するいろいろな船の種類のほか、未来につながる次世代の船、未知の世界である深海探索船までを紹介した。
秋企画展	※食品加工のイノベーション展	10月5日～ 12月23日	69	3,178	地元をはじめ、日本を代表する食品メーカーのイノベーションに関して、歴史や人物、製品などを交え紹介した。
冬企画展	※色イロひろがる印刷発見展	1月11日～ 3月9日	50	2,320	印刷の歴史や仕組みから、情報コミュニケーションツールとしての印刷の姿、印刷技術を応用した新たなソリューションまで、さまざまな印刷のテクノロジーを一堂に紹介した。
併設特別展	九州鉄道大蔵線	1月11日～ 3月30日	68	2,051	八幡製鐵所開業に活躍した大蔵駅、茶屋町・尾倉の赤煉瓦アーチ橋等をパネル展示するとともに、新に発見された「下駄歯」工法等を紹介した。
春企画展	せんいのチカラ展	3月21日～6月29日	2	265	(平成26年度春企画展)
計			249日	19,666	※は、市制50周年事業

※開館日数は、平成25年度に係る日数で表示。

※特別展の観覧者数は計に含まず。

3) 調査研究事業

産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

《実施内容》

(1) 「北九州における溶接技術の歴史と発展」の調査・研究

・当館調査研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会九州本部の宮田守次氏、同技術士会メンバーを含め特任研究員として委託して実施した。

(2) 「北九州におけるモータドライブ技術の歴史と発展」の調査・研究

・当館調査研究部門の監修のもと、山本技術士事務所の技術士山本正治氏を特任研究員として委託して実施した。

(3) 「イオン交換樹脂の技術系統化調査」の調査・研究

・国立科学博物館(産業技術史資料情報センター)と共同研究にて我が国の技術の系統化調査研究の一環として実施した。

(4) 「マイスターによる効果的な技術指導 ～ワイヤロープ加工作業～」の調査・研究

・当館調査研究部門及び工房長監修のもと、北九州マイスター技能伝承倶楽部に委託して実施した。

(5) 「九州鉄道大蔵線」の調査・研究

・当館職員(郷土史家)の永年に亘る研究資料をベースに自前で行った。

4) 映像・図書収集及び公開

企画展事業と連動する図書等もあわせ、イノベーション、産業技術、デザインに関する映像の制作や図書を積極的に収集するとともに、迅速な公開に努め、利用者の研究や学習を情報面から支援した。

(1) 図書の購入

・技術専門書、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し多分野に亘って広く購入した。また、種類別コーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。

・25年度図書の購入数： 917冊(書籍659冊 雑誌 258冊)

(2) 映像の製作

超大型鋳造・鍛造品の先導的なメーカーである日本鋳鍛鋼株が社運を掛けて取り組んだ世界最大級650トン鋼塊製造の技術と開発者の物語である「超大型鋳造・鍛造品製造の技術革新 650トン鋼塊製造への挑戦」(約26分)を制作した。

7. まちづくり推進事業

公益財団法人であるKPECの組織的位置づけを活かし、「支え合いと活力のある」社会の実現に向け、市民・団体・大学・行政等の連携軸として北九州の街づくりのための環境づくりを行った。

1) まちづくり講演会(KPEC設立25周年事業)の開催(再掲)

「北九州経済団体連携フォーラム」と連携して、「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」をKPEC設立25周年記念事業として開催した。テーマを設立記念シンポジウムと同じ「工業都市ー北九州への期待」として、これまでの四半世紀を踏まえ、目指すべき北九州の確かな未来づくりを市民とともに考える講演会とした。

- ・ 主 催 : (公財)北九州活性化協議会
- ・ 共 催 : 北九州地域経済団体連携フォーラム
- ・ 日 時 : 平成26年3月7日(金)
- ・ 講 師 : (独) 科学技術振興機構 研究開発戦略センター長 吉川 弘之 氏
- ・ テーマ : 「今後の我が国の科学技術イノベーションと工業都市―北九州への期待」
- ・ 参加者数 : 420名

Ⅲ. 法人運營業務

1. 会員サービスの向上

1) 情報提供の充実

会員管理システムの更新により、夢寄金を含めた会員管理機能の機能向上と、会員データの整備を進めた。また、会員への情報発信については、メール送信、ファックス送信等の情報発信機能を整備した。

2. 財務体質の改善策の実施

1) 財務体質改善計画の編成

① 財務体質改善計画の修正

平成24年度に編成した「KPEC 財務体質改善計画」を、数値目標を含めて見直し、今後の経営改善指標として確認をした。

② 資産区分の見直しと資産運用の改善

- ・ 評議員会で指摘された財務体質改善について、財務体質改善検討会を編成し、基本財産の繰り入れ等の資産区分の見直しを行い、あわせて資産運用の改善を図った。

2) 賛助会員の拡大

会員制度の見直しを行うと共に、会員情報の整理分析を行い、新規会員候補の設定および拡充計画を編成した。

- ・ 賛助会員条件の改定 ～ 法人会費 ; 10,000 円/口として、3 口を基準とする。

3) 寄付事業の開設運営

寄付金受け入れ体制を整備し、広報のためのパンフレットを作成中である。

3. 地域連携促進事業の運営

1) 「スポーツ振興チケット」事業

「KPECスポーツ振興チケット」を運用し、「ギラヴァンツ北九州」の応援を通じてまちづくりの心を醸成する「青少年の健全育成事業」を実施した。

①配布枚数 ; 12.8万部

②事業の成果

項 目	累 計	1 試合平均	構成比
全体入場者数	66,665人	3,175人	100%
チケットを使用した入場者数	4,966人	248人	7.5%

- ・ チケットを使用した入場者数 当初からの累計 : 30,576人

4. 組織運営体制の強化

1) 事業運営体制の整備

① KPEC新規事業の運営体制

「北九州地域産業人材育成フォーラム」事業および、「北九州の企業人による小学校応援団」事業について、事業の独立運営(事業予算の獲得、事務局体制の整備、運営システムの拡充等)の仕組みづくりを実施した。

② KIGSの管理運営

KIGSの管理運営について再検討を行い、管理費等の合理的な見直しを実施した。

KPECとの連携促進としては、産業人材育成フォーラム事業および北九州まちづくり講演会において事業連携を図った。

2) 公益認定範囲の見直し

KPEC事業の方向性に沿った公益認定範囲となるように変更申請の準備を進めたが、もったいない総研事業の大幅な見直しを行うこととなったので、変更申請を延期した。

5. 会議等の開催

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 評議員選定委員会の開催

第1回(書面開催):平成25年5月1日

第2回(書面開催):平成25年6月11日

第3回(書面開催):平成25年7月4日

2) 評議員会の開催

第1回臨時(書面開催):平成25年5月17日

第1回定時:平成25年6月17日

第2回臨時:平成25年12月17日

第2回定時:平成26年2月21日

3) 理事会の開催

第1回定時:平成25年5月29日

第1回臨時(書面開催):平成25年6月17日

第2回臨時:平成25年11月25日

第2回定時:平成26年1月20日

4) 執行役員会議の開催

第1回:平成25年5月14日

第2回:平成25年7月26日

第3回:平成25年8月21日

第4回:平成25年9月25日

第5回:平成25年10月23日

第6回:平成25年11月20日

第7回:平成25年12月17日

第8回:平成26年 1月10日

第9回:平成26年 2月21日